

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-45	小学校	国語	書写	3年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11 学図	書写 302	みんなと学ぶ 小学校書写 三年		

1 編修の 基本方針

多様性を前提とした問題解決能力の育成を

編修理念とし、「育てたい資質・能力」として、以下の通りにとらえました。



- 未解決の問題への関心
- 「なぜ」「わかった」を尊重する力
- 多様な他者とコミュニケーションする力
- 社会に貢献する意欲
- 論理的に考える力
- 少数意見も尊重した合意形成する力

文字に関わる伝統や文化、自然に関心をもち、習得した技能とともに日常や学校での生活に生かそうとする姿勢 (第4・5号)

整った読みやすい文字を書くための技能を効果的に考え、練習し、習得する力 (第1・2号)

自分や相手の書いた文字を互いに話し合うことで、多様な意見を相手だけでなく自らの書字技能にも還元できる力 (第1・2・3号)

学習指導要領では…

学びに向かう力、
人間性

生きて働く知識、
技能

思考力、判断力、
表現力

すべての子供たちに、自ら文字を書いて学ぶ喜びを



さらに、以下のような事項を重視したさまざまな工夫をし、教科書を編修しました。

1

書写技能の 確かな習得

「文字を書く」ことを主軸にし、主体的に考え、対話を通して考え、技能の習得や深い理解につながるわかりやすい書写学習プロセスを示しました。

p.36~37

学習プロセス

書写の基礎・基本を理解し、技能を習得して、「何が身に付いたか」がわかるためのプロセスを明確に示しています。

児童が見通しをもって学習できるように、「学習の進め方」で学習方法を詳細に解説しています。

学習の進め方



p.24~27



3 生かして書く

試し書きとまとめ書きを比較し、課題の達成を感得する。学習したことを生かして、別の文字や言葉、文章を硬筆で書く。

学習したことをふり返って書く。

2 考えて書く

学習すること（めあて）を確認し、まず課題文字を書いてみる（試し書き）。

書き方のカギ (見方、考え方)

教科書の文字や書き方のカギ（書けるようになるための見方・考え方）を確かめて、試し書きの文字と比較する。
他者やグループでの話し合い、意見交換などを通して自らの課題と解決法を発見・理解して練習する。
その後、再度課題文字を書く（まとめ書き）。

1 たしかめて書く

身に付いたことが 実感できる

「何が身に付いたか」が実感できるように、名前や身近な事柄を書き、自分の文字と向き合うことでより確実な自己評価ができるようにしました。

ふり返ろう

自分のすきな学校の行事を書こう。
曲がりとおれのちがいが、点の筆使いに注意して



p.22~23

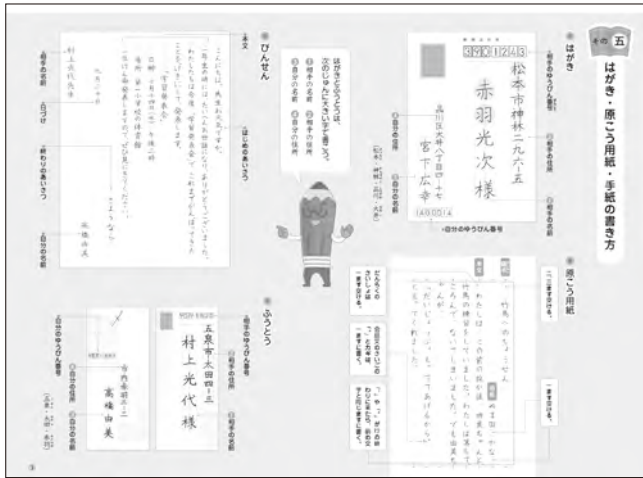
学習の焦点化

「たしかめて書く」には、書字の際の細かなポイントを示した、教材文字の縮小版を掲載することで、単元目標や自分の課題発見・解決に焦点化して取り組めるようにしました。



2 生活への活用

習得した書写の技能を、学習の場、生活の場において用いることができるように、書いて実感できる教材を多数掲載しました。



③ (折りこみ)

資料として、手紙やはがきの書き方、ローマ字表など、実用性の高いページを巻末にまとめています(「書写のしりょう館」)。児童が将来生活していく上で欠かせない実用的な事柄を掲載しています。

実際のはがきと同じサイズの書き込み欄で宛名書きの練習をする。



p.32



p.41

振り返ろう

各単元の最後にある「振り返ろう」で、自分や友達の名前、自分が知っていることや調べたことなど、学校生活や日常生活に即した課題を書いて、学習したことを確認できます。



自分のクラスの目標を書く。

3 文字文化への深い理解の醸成

古来より我が国にある伝統文化や技法に関わる資料、文学教材などを多く導入し、これらを取り巻く「文字文化」への理解を深められるよう工夫をしました。

ひらがなの成り立ちや筆・墨の伝統的な製造工程を写真や図で解説したコラムとして掲載しました。児童の興味・関心を促し、「文字文化」に対する視野を広げます。

また、「生かして書こう」には、現代まで伝承されている詩歌などを導入し、日本の伝統文化の象徴である「書き文字」への造詣を深めることができます。

p.44~45



祭・氷・童

p.15



p.33



興味・関心を高めるミニクイズを掲載。

これまで学習したことを生かして春夏秋冬の俳句を書き、さらに自分の好きな俳句を書く。

教育基本法との 対照表

教育基本法 第2条

第1号

幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

第2号

個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

第3号

正義と責任、男女の平等、他者の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

第4号

生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

第5号

伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書の構成・内容 特に意を用いた点や特色

該当箇所

「一 横画」ほか

毛筆や硬筆などで平仮名、片仮名、漢字を構成する点画の書き方などを学ぶことで、文字を正しく書くための幅広い知識と教養を身に付けられるよう配慮しました。(第1号)

→全般

なぜ?なに? 書写のふしぎ『ひらがなはどうやって生まれたの?』

平仮名の成り立ちについて触れることで、平仮名の歴史を知ろうとする態度を養えるよう配慮しました。(第1号)

→p.33

「七 文字の大きさと配列」ほか

はがきや手紙の内容を通して、豊かな情操と道徳心を培えるよう配慮しました。(第1号)

→p.38~40,
③(折りこみ)

「毛筆学習のはじめに」ほか

書字に適した身体に負担のかからない姿勢や、毛筆と硬筆の持ち方、用具の使い方を確かめることで、健やかな身体を養えるよう配慮しました。(第1号)

→p.1~4, p.5,
p.19,
①(折りこみ)

「学習の進め方」ほか

書写学習の進め方を知ることで、自他の意見を尊重しながら互いに能力を伸ばし合い、創造性をはぐくめるよう配慮しました。(第2号)

→p.24~27

書写のしりょう館『はがき・原こう用紙・手紙の書き方』

はがきや手紙、原稿用紙の書き方を通して、学校や日常生活で生かすことを重視する態度を養えるよう配慮しました。(第2号)

→③(折りこみ)

なぜ?なに? 書写のふしぎ『筆はどうやって作られているの?』ほか

筆と墨の製造法や自分の住んでいる地域を調べる活動例を通して、地域で働く人々や職人を知り、勤労を重んずる態度を養えるよう配慮しました。(第2号)

→p.11, p.15,
②(折りこみ)

「二 たて画とはらい」ほか

児童キャラクターの名前、男女比、登場回数などについて、男女の平等性を意識できるよう配慮しました。(第3号)

→全般

「七 文字の大きさと配列」ほか

はがきや手紙の内容を通して、相手を敬愛する態度を養うとともに、大人になっても役に立つ書き方のマナーを身に付けることで、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。(第3号)

→p.38~41,
③(折りこみ)

なぜ?なに? 書写のふしぎ『すみはどうやって作られているの?』ほか

筆や墨の作り方や原料について触れることで、自然を大切にし、用具を大事に使う態度を養えるよう配慮しました。(第4号)

→p.11, p.15

「六 画の長短と文字の中心」ほか

教材文字や、それをイメージした風景写真を掲載することで、自然を大切にする態度を養えるよう配慮しました。(第4号)

→p.14, p.32,
p.34~36,
p.39

「八 三年生のまとめ」ほか

筆や墨の作り方や平仮名の成り立ちについて触れたり、さまざまな俳句を書くことで、我が国に古くからある伝統や文化を尊重し、愛する態度を養えるよう配慮しました。(第5号)

→p.11, p.15,
p.32, p.33,
p.43~45

「五 ひらがな」ほか

教材文字をイメージした風景写真を掲載することで、我が国の自然と郷土を愛する態度を養えるよう配慮しました。(第5号)

→p.14, p.32,
p.36, p.39

書写のしりょう館『書きぞめをしよう』

書き初めの学習を通して、我が国の伝統的な文字文化を尊重するとともに、我が国と郷土を愛する態度を養えるよう配慮しました。(第5号)

→①(折りこみ)

書写のしりょう館『ローマ字』

ローマ字を書くことを通して、他国の文字文化を尊重し、文字文化を通じた国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。(第5号)

→p.46~47

3

上記以外に 特に意を用いた 工夫

教育基本法第5条第2項及び学校教育法第21条に則り、
児童の主体的な学習への取り組みを促すため、以下の工夫をしました。

書き込み欄の充実

本教科書には、書き込み欄を豊富に設けています。教材文字と自分の文字を、教科書内ですぐに確かめながら書けるようにしました。教科書を見れば、1年間を通して自分の学習の成果をふり返ることができます。

書き込み欄の大きさは、児童が使用するノートなど、普段から書き慣れた練習しやすいサイズに統一し、書写の技能を確実に習得できるように配慮しました。

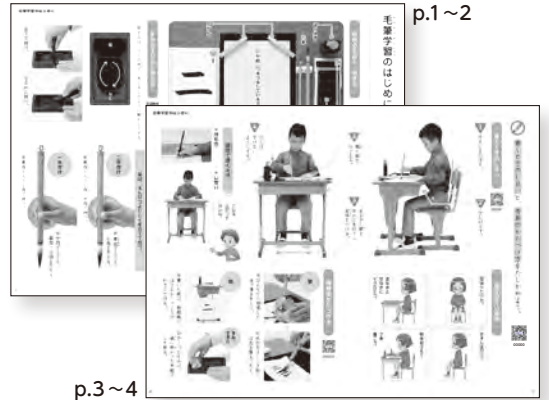
p.42~45



基礎・基本を大切に

正しい姿勢や筆記具の持ち方が定着し、毛筆の扱い方が明瞭にわかるように、大きな写真やイラストで詳しく解説しています。

p.1~2



p.3~4

使いやすく、美しい手本で学ぶ

毛筆・硬筆ともに同一の書き手による、学習指導要領に示された字体をもとに書かれた、美しく穏健・中正な文字です。文字に対する感覚と正しい認識を育て、児童の書写の学習を助けます。

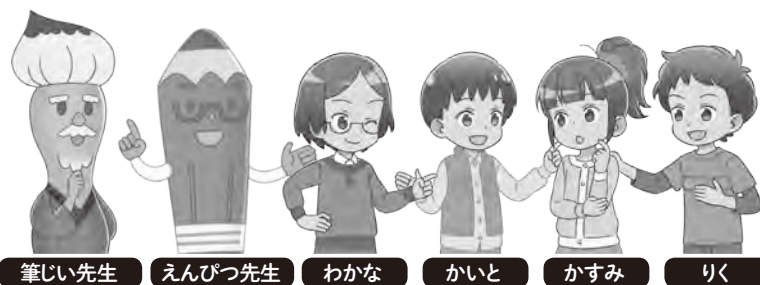
また、2文字以上の毛筆教材はすべて半紙原寸大で掲載しています。文字の大きさや配列が視覚的に理解しやすくなるとともに、「かご書き」「骨書き」などの練習用紙の作成にも活用できるため、児童の効率的な課題発見・解決を促します。

p.20~23



学習意欲を高める

児童が興味を持って書写の学習に取り組めるよう、明るく楽しい紙面構成にしました。「えんぴつ先生」や「ふてしい先生」を登場させ、書写の基本的技能や用語の解説、大切なポイントを示しました。また、各学年に子供のキャラクターを登場させ、児童の立場からの疑問や気付きなどを示し、親しみやすく主体的な学びをサポートします。



学びやすい教科書

- 多様な色覚特性に配慮し、全ページにわたって、誰もが見やすい配色にしました。教科書本文については、教科書体のUDフォントを用い、また意識的に文節改行をこころがけ、読みやすさを徹底しました。
- 教科書の文字と練習用の書き込み欄（マス）は、縦に配置し、利き腕を問わず、教科書の文字が隠れないように配慮しています。誰もが使いやすく平等に学習できるユニバーサルデザインに配慮した構成となっています。
- 用紙は書き込みやすく、軽くて紙面の色が鮮やかに発色するものを使用しています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-45	小学校	国語	書写	3年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11 学図	書写 302	みんなと学ぶ 小学校書写 三年		

1

編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領の方針に則り、資質・能力の育成を

書写の本分である

文字を
書くこと

を主軸とした

以下の **3つの活動** に広げ、とらえました。

文字を

知る

生かす

楽しむ



さらに、

文字を
書くこと

が定着するために、

3つの点 を重視して編修しました。



何を学ぶか



どのように学ぶか



何が
できるようになるか





何を学ぶか

生きて働く書写の技能

文字を整えて書くための基礎・基本やその技能の活用法、理解を深めるさまざまな資料において「何を学ぶか」という目標が明確にわかり、児童が学習の見通しをしっかりと立てて取り組める紙面にしました。



児童が学習の中で「何を学ぶか」を常に意識し、生きて働く書写の技能を確実に身に付けるために、単元の最初に示した学習目標を、途中の練習や解説、最後のふり返りなど随所に示しました。

p.22~23



どのように学ぶか

主体的・対話的で深い書写学習プロセス

書写の基礎・基本を、主体的・対話的で深い学びに沿った3つの「書く」ステップで学習することで、児童がどのような学び方で、自分がどれくらい理解しているかが見える紙面構成を心がけました。

学習プロセス

1 たしかめて書く

学習すること（めあて）を確認し、まず課題文字を書いてみる（試し書き）。

2 考えて書く

書き方のカギ（見方・考え方）

教科書の文字や書き方のカギ（書けるようになるための見方・考え方）を確かめて、試し書きの文字と比較する。他者やグループでの話し合い、意見交換などを通して自らの課題と解決法を発見・理解して練習する。

その後、再度課題文字を書く（まとめ書き）。

3 生かして書く

試し書きとまとめ書きを比較し、課題の達成を感得する学習したことを生かして、別の文字や言葉、文章を書く。

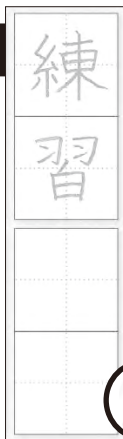
ふり返り

学習したことをふり返って書く。

p.30

書いて学ぶ

整えて書く習慣を身に付けられるように、書き込み欄を豊富に設けました。教材文字と書き込み欄は上下に配置し、利き腕を問わず、確実な視写ができるよう配慮しています。



深い学びの実現

児童が「見方・考え方」を活用して、主体的に問題や課題を発見・解決し、より深い学びにつながるように、親しみを感じられる子供のキャラクターを登場させ、児童の視点に寄り添った疑問や気づきなどを示しました。





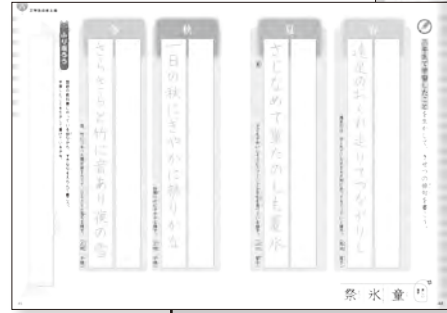
何ができるようになるか

多様な変化に応じ、効果的に書く

習得した技能をさまざまな文字や生活の場面で活用し、効果的に書く姿勢を養えるように、習得の実感を伴うふり返りや、活用の可能性や児童の創造性を広げるさまざまな資料を掲載しました。



p.15



p.44~45

はがきや手紙、原稿用紙の書き方など、相手や目的を意識して書くことに留意し、学校や日常生活だけでなく将来まで活用できる資料を豊富に掲載しました。

常に自分に寄り添う文字や「文字文化」に対して、親しみや楽しみをもつて理解をより深められるように、筆・墨の伝統的な製造工程やひらがなの成り立ちなどを写真や図で解説した「コラム」を掲載しています。また、現代まで伝承されている詩歌などを書く教材を導入し、日本の伝統文化の象徴である「書き文字」への造詣を深めることが出来ます。

ふり返ろう

自分のクラスの目ひょうを書こう。漢字とひらがな

③(折りこみ)

ふり返ろう

身に付いたことが実感できるように、名前や身近な事柄を書き、自分の文字と向き合うことでより確かなふり返りができるようになりました。

わかりやすさ、学びやすさの追求



二文字以上の毛筆教材は、半紙原寸大で掲載し、文字の大きさや配列を視覚的に理解しやすくしています。また、中綴じて製本しているため、しっかりと開きやすく、快適に学習に取り組みます。

硬筆の書き込み欄は、児童が使用するノートなどの普段から書き慣れた大きさに統一しています。

原寸大の教材文字

なぞってから書く

硬筆教材は、ほぼすべてに「なぞってから書く」という練習方法を設定しました。なぞり書きて点画や手の動きを意識し、もう一度書くことで、文字を整えて書くこととする意識の定着を促します。

p.42~43

基礎・基本の定着



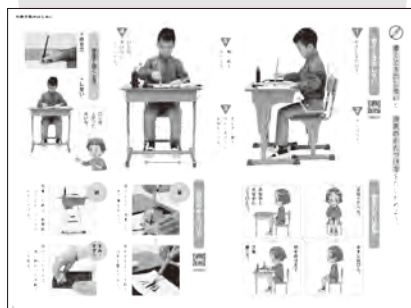
正しい姿勢や筆記具の持ち方が定着し、毛筆の扱い方が明瞭にわかるように、巻頭に大きな写真やイラストで詳しく解説しています。



p.34~35



p.10



p.3~4

教科書の観点別特色

観点	特色と留意点	観点	特色と留意点
教育基本法の遵守	教育基本法第2条1号から5号までのすべてを網羅し、その理念を全うすることを大前提として編修されています。	問題解決的、体験的な活動の取りあげ方	「確かめて書こう」で示す教材文字には、単元目標となる書き方は示さず、キャラクター達のセリフの中にヒントや着眼点の例を示すことで、児童が主体的に課題を発見し、解決に向けて取り組めるよう配慮しています。
学習指導要領の遵守	小学校学習指導要領に示された国語科書写の目標をふまえ、書写の基礎・基本や技能、主体的に学習に取り組む態度が身に付くよう編修されています。	「伝統・文化」の取りあげ方	文字文化を通して書写に関する興味・関心や知識が深まるように、書写の用具や歴史、文字の歴史などの資料ページを設けています。
内容・系統	「学習の進め方」が特設され、試し書きから練習、まとめ書き、ふり返りまでの一連の流れが視覚化されており、自学自習だけでなく対話を通した課題解決学習に有効な構成となっています。	現代的な課題の取りあげ方	【キャリア教育】 教材や資料を通して、労働の尊さや勤労の意義を考えさせるような作品を掲載しました。
	教科書の後半部分には、生活に生かすことができる資料(手紙やはがきの書き方、ローマ字表等)を豊富に掲載しています。		【ESD】 持続可能な発展を意識できるような言葉を取りあげ、書くことで将来を考えられるような教材文字を導入しています。
	基礎・基本の学習が確実に定着するように、大きな写真やイラストで、正しい姿勢や筆の持ち方を詳しく解説しています。		【道徳教育】 相手を意識して書く教材を通し、社会との関わりの中で「共に生きる」態度を養えるようにしています。
配列・分量	内容が系統的・段階的に構成され、年間30単位時間程度の配当時間内に、効率的で無理のない学習ができるよう配慮しています。	他教科と実生活との関連	国語、算数、理科、社会、道徳、外国語活動など、他教科と関連する題材を積極的に取り入れています。
	すべての学年の各単元に自己評価の観点提示され、個に応じた学習上の配慮がなされています。		ノート、はがき、手紙、原稿用紙など、学校生活で役立つ教材から、日常生活や将来まで役立つ教材まで幅広く取りあげています。
	児童の学習時期に合わせ、硬筆教材の大きさや語句の提示の形式を変更するなどして、発達段階に配慮しています。		教科書に書き込み欄を豊富に設けることで、児童が書き込んだ教科書を持ち帰り、学校での学習を家庭で共有することができます。
「資質・能力」育成の方向性	「個別の知識・技能」については、各単元構成において整った読みやすい文字を書くための技能を効果的に考え、練習し、習得できるよう配慮しています。	書体	文字に対する感覚と正しい認識を養える、書写技法の学習に適切な教材を設けています。
	「思考力・判断力・表現力等」については、相互評価を通した「学習の進め方」を示すことで、多様な考えや意見を相手に与えるだけでなく自らの書字技能にも還元し、表現できるよう配慮しています。		硬筆・毛筆ともに同一の書き手の文字であり、統一されているため、学習上の混乱を防ぎます。
	「学びに向かう力、人間性等」については、はがきやノート、手紙の書き方や文字に関わる資料を通して、自らのこれからの人生に必要な書字技能を的確に活用できるよう配慮しています。		カラーユニバーサルデザインの観点から、全ページにわたり配色とデザインに十分な配慮を施しています。
学習方法・授業展開への配慮	「書き方のカギ」や「ふり返ろう」等のマークをつけ、学習活動を明確に提示しています。	ユニバーサルデザイン、特別支援教育との関連	UDフォントを用い、視認性と読みやすさの向上を図っています。
	各単元では、授業展開を「確かめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」の3つに分け、書写学習の基本となるパターンとして示しています。		効率的に毛筆学習を始められるように、二文字以上の毛筆教材はすべて半紙と同じ大きさで掲載されており、そのまま手本として使用できます。
	児童の学びが広がり、深まるように、動画や学習ツールなどを活用できるQRコードを随所に掲載しました。		硬筆の教材文字と書き込み欄については可能な限り上下に配置することで、利き腕を問わず教材文字が隠れずに練習できるよう配慮しています。
			教科書の用紙は書き込みやすく、軽くて色が鮮やかに発色するものを使用しています。

対照表



図書の構成・内容

学習指導要領の内容

〔知識及び技能〕(3)エ

第3
指導計画の作成と
内容の取扱い
2(1)カ

毛筆学習のはじめに

(ウ)

(ア)(イ)(ウ)

p.1
4

小筆の持ち方と使い方

(ウ)

(ア)(ウ)

p.5

はじめの練習

(ウ)

(ア)(ウ)

p.6
7

一・横画

(ア)(ウ)

(ア)(イ)(ウ)

p.8
10

二・たて画とはらい

(ア)(ウ)

(ア)(イ)(ウ)

p.12
14

三・おれとはね

(ア)(ウ)

(ア)(イ)(ウ)

p.16
18

小筆で書いてみよう

(ウ)

(ア)(ウ)

p.19

四・曲がりとおれ、点

(ア)(ウ)

(ア)(イ)(ウ)

p.20
23

五・ひらがな

(ア)(ウ)

(ア)(イ)(ウ)

p.28
32

六・画の長短と文字の中心

(イ)(ウ)

(ア)(イ)(ウ)

p.34
37

七・文字の大きさと配列

(イ)

(ア)(イ)

p.38
41

八・三年生のまとめ

(ア)(イ)

(ア)(イ)

p.42
45

・ローマ字

・ひらがな・かたかなの表

・横書き

資料

「書写のしりょう館」

・はがき・原こう用紙・手紙の書き方

・三年生で学習する漢字

(ア)(イ)(ウ)

(ア)(ウ)

①
(折りこみ)

p.46～51, ②～③(折りこみ)

適宜

3

4

3

3

3

適宜

3

3

3

1

適宜

適宜

該当箇所

配当時数

第三学年年間指導時数30時間の内、29時間を配当。余りの1時間は児童の習熟度に合わせた学習の予備時間として充当する計画。

計
29